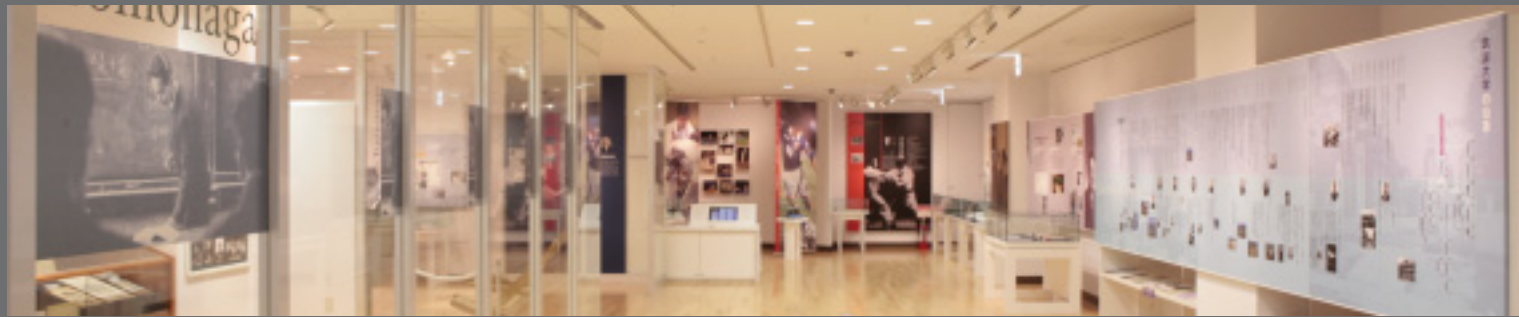


筑波大学への誘い

筑波大学は、1973(昭和48)年10月、東京教育大学の移転を契機に「教育と研究の新しい仕組み」、「新しい大学自治」、「開かれた大学」を特色とする新しい構想に基づき、筑波研究学園都市の中核的機関としての役割も担って創設されました。開学以来、大学改革の先導的役割を果たしてきた本学は、1872(明治)年に発足した

師範学校以来の伝統を受け継ぐ、我が国多数の歴史を誇る大学でもあります。本展示室では、広く社会の皆様の本学の歴史と伝統に触れていただくことを目的として、その代表的な資料を常設展示しています。



朝永記念室

Tomonaga Memorial Room

朝永振一郎博士は、1906(明治39)年生まれの物理学者であり、筑波大学の前身である東京文理科大学と東京教育大学で、黎明期の素粒子物理学の研究に従事しました。戦中・戦後の困難な時代に、超多時間理論とくりこみ理論を建設して光と電子の相互作用を解明しました。1965(昭和40)年にはこの功績によりノーベル物理学賞を受賞しています。また博士は、東京教育大学の学長ならびに附属光学研究所長を務めました。朝永博士の指導下に育った研究者たちは物理学の研究を大きく発展させ、その系譜は筑波大学へと引き継がれています。

朝永振一郎博士記念展示

Dr. Sin-itiro Tomonaga Memorial Exhibition



撮影：菊池俊吉氏



体育・スポーツ展示

P.E. and Sport Exhibition

筑波大学は前身校からの長い歴史の中で、数々のスポーツ選手を輩出してきました。日本初のオリンピック出場選手、日本最多のメダル保持者や金メダリストを始めとする日本屈指のオリンピック選手たち、また、筑波大学ならではの多岐にわたるスポーツにチャレンジしているアスリートたちの輝かしい軌跡を紹介します。



白川英樹博士記念展示

Dr. Hideki Shirakawa Memorial Exhibition



白川記念室

Shirakawa Memorial Room

白川英樹博士は、2000(平成12)年に導電性高分子の発見と開発の業績によりノーベル化学賞を受賞しました。少年時代に身近な自然現象に興味を持ち、その中から高分子化学の研究を選んだ白川博士は、偶然見出した現象を世紀の大発見に結びつけました。まさにセレンティビティー的な能力を持ち合わせていたのでしょう。



江崎玲於奈博士記念展示

Dr. Leo Esaki Memorial Exhibition



江崎玲於奈博士は、1973(昭和48)年トンネルダイオード発見の業績によりノーベル物理学賞を受賞しました。日本で、そしてアメリカで、企業の研究者として、現代のエレクトロニクスの基礎を担う半導体物理学の新しい分野をきり拓きました。1992(平成4)年アメリカから帰国、6年にわたり筑波大学の学長を務め、新時代を担う新しい大学づくりに取り組みました。



附属学校展示

Laboratory Schools Exhibition

筑波大学には現在11校の附属学校があります。通常の小・中・高等学校から特別支援学校まであらゆる種類の附属学校があるのは全国でも筑波大学のみです。それぞれの学校が日本の教育界でリーダーシップを取っており、その実績は広く知られているところです。

